

実践事例様式

校種 (学級・教室の種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	1年2人、2年1人、3年2人、5年1人 計6人 本事例対象児童 A 児（3年）は、自分の思っていることを言葉で表現することが苦手である。そのため、友達とうまくコミュニケーションが取れず、結果として暴言や暴力となってしまう。そこで、アンガーマネジメントと自分の気持ちを表現するための自立活動を行った。	目標・ 指導 内容	【目標】 場面ごとに自分の気持ちを 選択したり、表現したりす ることで、自分の考えを伝 えることができる。 【指導内容】 2 心理的な安定（2） 3 人間関係の形成（3） 6 コミュニケーション（2）
指導の経過・ 工夫点・子ど もの変容	使用教材：みんなの怒りスイッチをさがせ!：ゲームで身につくアンガーマネジメント (合同出版 https://www.godo-shuppan.co.jp/book/b499394.html) 【指導の経過】 ○ 自分や友達の怒りスイッチを知る。 ・ 場面カードを読んで、「許せる」「まあ許せる」「許せない」を選び、人によって怒りの感じ方は違うということを知る。 ○ 人によって怒りの温度が違うことに気づく。 ・ 場面カードを読んで、自分や友達はその出来事に対してどのくらい怒りの強さを感じるか「0～10のカード」の中から選択する。 ○ 上手な怒り方ができるような方法を考える。 ・ それぞれの場面で自分ならどうするか一緒に考える。問題をスルーしたり、自分の行動や伝え方を考えたりする。 【子どもの変容】 ○ トラブルが起きたときに自分の怒りをカードで表現し、問題にどうやって向き合っていくかを教師が出した選択肢の中から選ぶことができるようになっている。 ○ 交流学級で友達に対して暴言等が見られることはあるが、交流学級の担任から聞き取ったり、支援学級で振り返ったりすることを通して、以前と比べて怒って手や口を出す前に相手に自分の気持ちを伝えようとする姿や言動が見られることが多くなった。		
成果と課題・ 今後の方向	【成果】 ・ 自分の怒りのレベルを認知できるようになってきている。 ・ 教師や友達（支援学級）と場面カードについて話し合うことで、それぞれの感じ方の違いを感じ取り、身振り手振りや表情などリアクションで表現していた。 【課題】 ・ 本児の特性から、言葉で表現することが苦手なので、教師が選択肢を準備して、それを選ぶようにしている。「2 心理的な安定（2）」「3 人間関係の形成（3）」などの項目と絡めて、自己表現の方法も学習していかないといけない。 ・ 授業時数に余裕がなく、自立活動の時間を計画的に確保することに悩みがある。		